世界の中心で、香大生は何を考える？

映画『世界の中心で、愛をさけぶ』のロケ地、庵治。あの有名な防波堤にたたずむ香大生がいます。実はこれ、経済学部で今年4月に開講された「香川の観光を現場から考える」の授業風景です。

この授業は、香川県内の観光地に受講生が赴き、実際に観光の現場を見て観光産業の現状を考察するというもの。訪れる観光地は受講生の投票により、栗林公園・直島・引田・庵治・レオマワールド・サンポート高松の6カ所が選ばれました。毎回、受講生は事前に自分たちでガイドブックなどを使い予習をします。当日の調査方法も自由で、観光地で働く方への聞き取りを行う人、周辺の店を訪ねる人などさまざま。その場で何時間かを過ごした後はみんなで集まり、各々が感じた観光地の魅力や改善点などを述べ合い、レポートにまとめます。講義の準備から成果発表まで、すべて学生が主体となって展開しているのです。

担当する原 直行助教授によると、この講義のポイントは「現場主義」。実際に経済活動の現場を知り、自ら体験して問題点を探ることに主眼を置いています。「経済学部の講義というと教室に閉じこもりがちになりますが、経済・経営では、

お客さんが実際に何を感じているかを知るために現場に行くというフィールドワークも欠かせません。現場へ行き、体験したことは、匂いや音まで鮮烈に記憶に残りますからね」。経済学部では基礎科目として、これからも重点的にフィールドワークの手法を取り入れていく予定です。

この授業は地元の観光業界からも注目を集めており、香川県観光振興課や社団法人香川県観光協会との情報交換も盛んです。「若い世代の観光客を取り込むために、学生の率直な視点から、現在の問題点を探りたいとの要望があるんです」と原助教授。10月からは県とタイアップして、県内の観光振興に学生も直接携わるような講義プランも進行中です。

原助教授が「この授業ではみんな本当に楽しそう。教室とはまるで別人ですよ」と語るほど、生き生きと現場を探索する学生たち。彼らの素直な感性に耳を傾けることから、多くの人をひきつける観光地が生まれるのかもしれません。

現場主義

KEYWORD

［現場主義］

観光地の現場に行く、見る、取材する、考える。そして積極的に意見を述べることが、「香川の観光を現場から考える」の授業で求められている。学生が主役となり、現場で何が問題になっているのかを感じ取ることが、実社会で役立つ経済学に必要であるとの考えから、積極的にフィールドワークを取り入れた内容になっている。

半年間でもらった名刺、153枚。

香大の新しい就職活動は、彼が始めた。

MEMO

企業主催の就職支援イベントはよくあるけど、香大生自身が作り上げた就職支援イベントがあったのを知ってますか？　その企画のリーダーが僕です。

そもそもの発端は、僕自身が就職活動を始めた時。企業の就職担当者と話をしてみて、自分があまりに会話ができないのに愕然としたんです。僕ら学生はたいてい、就職活動を始めてからあわてて企業研究をするんですが、実は学生って社会のことをまったく知らないんです。まず、社会人と話をする機会がない。社会の実態を知らなくて就職しても、後で困るだろうと。そこで、社会人と学生が情報交換できる場を作ろうと思いました。先輩が昨年1月に「讃岐本気（まじ）会」という交流イベントを開催しており、それを引き継ぐ形で、前回の反省点も踏まえて企画を作り、今年2月に「第2回讃岐本気会」を開催しました。

イベントの参加者は、社会人・学生合わせて85人。社会人の参加については、起業家団体のアントレプレナー協議会や中小企業家同友会などに協力をお願いしました。社会人の方も、学生が何を考えてるかとか、いま何が流行ってるかとか、学生の情報をほしがっていて、積極的に協力してくれました。成功した！と実感できたのは、交流会の最中に参加者の目を見た時。社会人も学生も、全員の目が光り輝いて、楽しそうなのを見た時は「ああ良かった！」と思いましたね。

スタッフ13人は全員、就職活動と同時進行なので、それは大変でした。でも常に社会人と接していると、会話の基礎能力が上がってるのが実感できるんです。以前は「君は学校で何を勉強してるんだ」「将来は何をしたいんだ」とか次々質問されても、焦って答えられなかったりしたのが、今は的確に答えられるようになりました。そうなると、教授や他の社会人に対しても、対等でいられる。自信がつくんですね。それに、普通に学生生活してたらまず会えないような議員さんや社長さんとも話ができたのはすごい経験ですし、勉強にもなります。今は情報過多で、企業情報もネットで得られる時代。でも、それでわかったつもりで面接に行っても役に立ちません。やはり生の情報が一番。情報を集めて、自分で判断できる能力を身につける必要があるのでは、と思います。

イベント終了後も、社会人との交流は続いています。職種別の交流会を開きたいというプランもあるし、教授と社会人の交流の機会も作りたい。また、同じ問題意識を持っている他校の学生とネットワークを作りたいです。就職活動って、逆に言うといろんな企業をタダで見られるチャンスですよね。1、2年のうちから意識して、社会に対してアンテナを張っておいた方がいいと思います。

浜崎純司

PROFILE

はまざきじゅんじ
経済学部経済学科4年